4 生徒会発信のユニセフ活動「わたしたちに救える命がある」

報告者　東京都台東区立上野中学校　主任教諭　石田　麻紀　先生

本校生徒会の取り組み

本校は昭和22年に開校し、今年で66周年を迎えました。上野公園の豊かな緑と、多くの文化施設に囲まれ、とても恵まれた環境の中で教育活動を行っています。

本校の教育目標

自然と世界に調和して誠実に生きる、心身ともに健全な国民として、
まことの知恵を求め、
あたたかく思いやり、
人々のお役に立とう。

教育目標の達成を目指す活動の一環として、本校では生徒会が呼びかける奉仕活動の充実に取り組んでいます。毎週水曜日の登校前の時間に、生徒会主催で「ボランティア清掃」を実施しています。毎週多くの生徒がこの清掃活動に参加し、学校周辺の美化に貢献しています。また、数年前から、生徒会役員の生徒たちから「もっと上野中で、世の中の役に立てる活動がしたい」という意見が挙がり、エコキャップ運動の取り組みも始まり、ペットボトルキャップのリサイクル活動に参加しています。月一度の生徒会朝礼で、エコキャップ運動の目的を紹介したり、環境や貧困など、世界が直面する様々な課題について、学び、考え、行動する機会を、全校生徒に提供しています。

朝清掃の様子

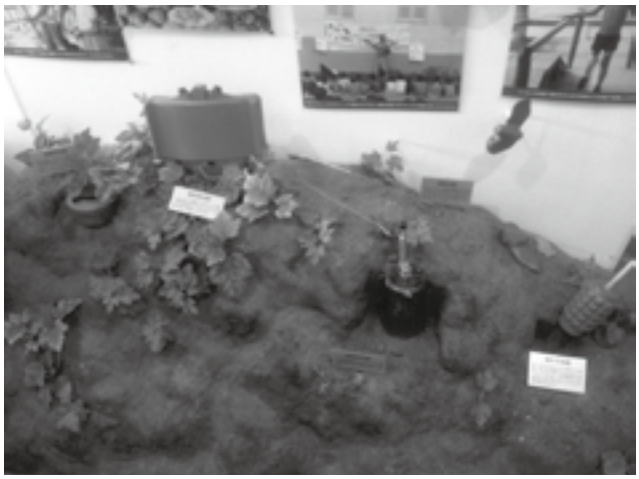
エコキャップ運動

生徒会発信のユニセフ活動、開始

そして昨年度は、さらにもう一歩踏み込んで、生徒会主導のボランティア活動に取り組む決心をしました。それが、「ユニセフ募金」でした。実は、これまでも本校ではユニセフの募金活動に参加していましたが、PTAバザーでの収益金を寄付する形をとっていました。そのため、生徒の参加意識が十分ではなく、ユニセフの存在意義など知らない生徒も多い状況でした。そこで、生徒会では「全校生徒にユニセフについてもっと知ってもらって、存在意義を理解した上で、募金活動に参加を呼びかけよう！」と積極的に企画する運びになりました。言わば、生徒会発信のユニセフ活動です。

ユニセフハウス見学

「みんなに発信するためには、まず自分たちが知ることから」 ――そう考えて、生徒会役員生徒で、昨年の夏休みを利用して、品川に在るユニセフハウスを見学しました。世界の国々が抱えている様々な問題について、担当の方が丁寧に説明して下さったのを真剣に聞きました。展示パネルや地雷レプリカは、何枚も写真を撮りました。



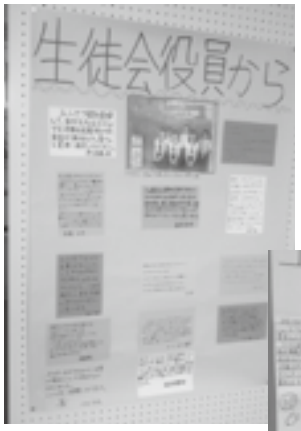
展示発表

ユニセフハウスで学んだ知識をもとに、生徒会役員が「ユニセフの活動」について、何十枚もの模造紙にまとめました。それらを10月の学芸発表会で展示し、全校生徒や保護者など多くの人に見てもらいました。

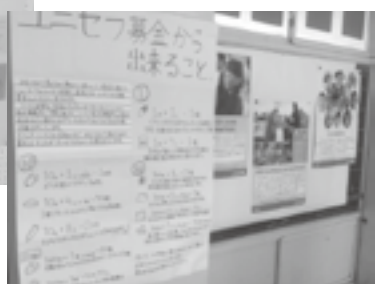
当日は、協会からお借りした水がめや地雷のレプリカも展示し、よりリアルに世界が直面している紛争や困窮の現実に触れる機会となりました。見学していた生徒に、生徒会役員生徒がユニセフハウスで学んだことを説明することで、より一層多くの生徒がユニセフの活動への興味や理解を深め、自分たちが今生活している環境がいかに恵まれているかを実感していました。この展示発表後、募金活動を行い、多くの協力を得ることができました。

また、今回のユニセフ募金活動が行事のためだけの活動に終止しないよう、作成した展示物は校舎廊下の掲示板に常設してあり、いつでも生徒の目に触れるようになっています。これからも掲示内容を充実していけたらよいと思っています。

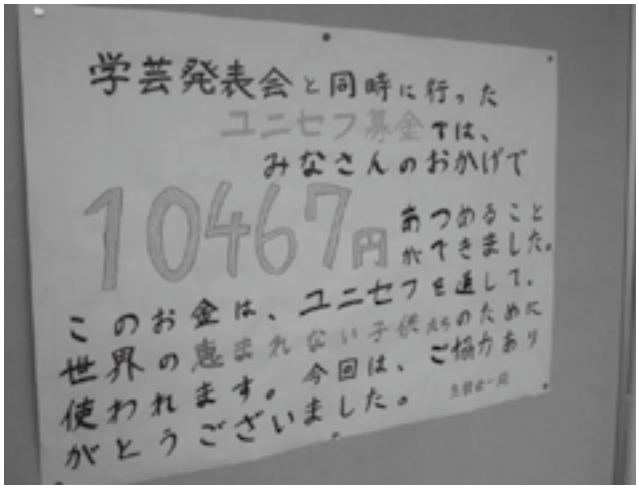
生徒会で作成した展示物



◀学芸発表会展示▼



募金活動



後日、協力のお礼と報告

生徒の感想

○　ユニセフ募金について、まずは生徒会の私たち自身がもっと良く知るために、昨年の夏にユニセフハウスを見学しました。

　ユニセフハウスでは、まず施設の方からの説明があり、それからDVDや展示物を見ました。そこで見たものは、どれも衝撃的なものばかりでした。銃を持った子どもの写真、痩せ細った赤ちゃん…。発展途上国の現状を知り、「日本で当たり前のことでも、世界では当たり前ではない国々があるんだ」、と感じました。また、今回学んだことをポスターにして掲示したり、本物の水がめなどをお借りして展示発表したことで、全校生徒のユニセフとその活動に対する関心を高められたと思います。

　今回の経験を通し、私だけではなくみんながユニセフについて知り、考える良いきっかけになったと思います。機会があったら、またぜひユニセフハウスを訪れたいです。

○　ユニセフハウスを見学する前は、ユニセフが子どもの死亡率の高い国々にワクチンを送っていること程度しか知りませんでした。しかし、様々な展示物を見学し、担当の方の話を聞いて、カンボジアなど様々な国の地雷撤去の補助や、災害などで勉強道具が不足している地域に無償で教具を提供するなど、人間が安全で、豊かな生活を営むために欠かせない、様々な面を援助していることが分かりました。

　見学後、自分がユニセフハウスで学んだことを他の生徒にも理解してもらえるように、掲示物を作って展示しました。

　そうすれば、募金も増えると思い、掲示物の内容も「どのように書けば、みんなにユニセフの活動について伝えられるか」を考え、工夫して作成しました。ユニセフハウスを訪問した後だからこそ、「自分も世界中の困っている子どもたちのために貢献したい」「少しでも役に立ちたい」という思いが湧いて、このような展示につながったと思います。

まとめ

　今回の活動は、「自分たちに何かできることはないだろうか」と、純粋に「誰かの役に立ちたい」「世界のために何かしたい」という思いで生徒会役員生徒自らの発案で始まったことが、最も意義あることだったと思います。そして、その気持ちに応えるように、全校生徒がユニセフの活動に興味を持ち、積極的に募金活動に参加してくれました。この活動を、イベントとしての単発的なものに終わることなく、「無理しなくてもできる協力を長く」をモットーに、今後もユニセフ活動への理解を深め、本校の特色ある教育活動の一つとして、継続していきたいと思います。